

## 脳性麻痺&amp;小児疾患（12問）

## はき国家試験 リハビリテーション医学

## 【小児疾患】

はき 23-85 小児疾患と障害の組合せで正しいのはどれか。

1. ポリオ ————— 球麻痺
2. 進行性筋ジストロフィー症 ————— 両麻痺
3. 二分脊椎 ————— 対麻痺
4. ダウン症 ————— 片麻痺

## 【脳性麻痺】

はき 1-95 脳性麻痺で誤っているのはどれか。

1. 単なる運動麻痺ではなく運動発達障害の要素が多い。
2. 最初は筋緊張が低く次第に異常筋緊張を示すことが多い。
3. 四肢麻痺であるから訓練が難しい。
4. けいれんのコントロールが大切である。

はき 2-94 脳性麻痺について誤っている記述はどれか。

1. けいれん発作のコントロールが必要である。
2. 精神発達遅滞と麻痺の程度とは無関係である。
3. 訓練法としてボバース法、ボイタ法などがある。
4. 訓練は学齢期から開始する。

はき 6-95 脳性麻痺について正しい記述はどれか。

1. 障害は1歳ころまで現れてこない。
2. 知的能力と機能障害とは一致しない。
3. 呼吸障害は伴わない。
4. 感覚障害は伴わない。

はき 9-93 脳性麻痺について正しい記述はどれか。

1. 痙直型は腱反射が低下する。
2. アテトーゼ型は不随意運動がみられない。
3. 失調型は平衡機能が保たれる。
4. 弛緩型は抗重力姿勢が保てない。

はき 11-93 脳性麻痺について誤っている組合せはどれか。

1. 痙直型 — 腱反射亢進
2. 弛緩型 — 抗重力姿勢保持困難
3. 強剛型 — 関節拘縮
4. アテトーゼ型 — 鉛管現象

はき 14-93 脳性麻痺の病型として誤っているのはどれか。

1. 感覚障害型
2. 運動失調型
3. 痙直型
4. アテトーゼ型

はき 15-91 脳性麻痺でみられにくいのはどれか。

1. 尿 閉
2. けいれん
3. 嚥下困難
4. 言語発達遅延

はき 21-91 脳性麻痺について正しい記述はどれか。

1. 脊髄病変が関与する。
2. 運動の永続的障害である。
3. 進行性病変である。
4. 生後4か月以降に生じる。

はき 25-86 脳性麻痺の定義について正しいのはどれか。

1. 進行性病変に基づく。
2. 永続的な運動障害である。
3. 脊髄病変も関与する。
4. 症状は生後 4 週以内に発現する。

はき 27-85 痙性麻痺がある脳性麻痺患者に対してよく行われる治療はどれか。

1. 向精神薬投与
2. 頸椎除圧固定術
3. ボツリヌス療法
4. 人工膝関節置換術

はき 28-86 脳性麻痺について正しいのはどれか。

1. 早期診断は容易である。
2. 診断が確定してから介入する。
3. 運動発達は自然に任せる。
4. 家族への保育指導を行う。

---

脳性麻痺&小児疾患（ 17 問 ）

あまし国家試験 リハビリテーション医学

---

【小児疾患】

あ 13-104 生後 4 か月児で発達異常が疑われるのはどれか。

1. 首がすわらない。
2. 寝返りを打たない。
3. ガラガラを握らない。
4. 母親を呼ばない。

【脳性麻痺】

あ 3-102 脳性麻痺の病型に含まれないのはどれか。

1. 痙直型
2. 失調型
3. デュシェンヌ型
4. アテトーゼ型

あ 4-105 脳性麻痺によくみられる状態として誤っているのはどれか。

1. 脳病変の進行
2. 運動発達の遅延
3. 筋緊張の亢進
4. 股関節脱臼の出現

あ 5-99 脳性麻痺について正しい記述はどれか。

1. 脳の進行性病変に基づく障害である。
2. 神経生理学的訓練が行われる。
3. 手術的治療の対象とはならない。
4. 補装具による治療効果は期待できない。

あ 6-106 脳性麻痺について誤っている記述はどれか。

1. 病型として痙直型が多い。
2. 聴力障害は言語発達を遅らせる。
3. 異常な運動パターンを示す。
4. 運動療法の開始は3歳まで待つ。

あ 7-103 脳性麻痺の早期訓練開始の目的で誤っているのはどれか。

1. 脳損傷の改善
2. 二次的な知的発育遅滞の予防
3. 関節拘縮の予防
4. 正しい運動パターンの獲得

あ 8-104 脳性麻痺について誤っている記述はどれか。

1. 脳の非進行性病変で起こる。
2. 症状は生後4週間以内に発現する。
3. アテトーゼ型は不随意運動を呈する。
4. 痙直型は関節の変形が起こりやすい。

あ 9-103 脳性麻痺の早期治療の目的で誤っているのはどれか。

1. 正しい運動パターンを獲得する。
2. 二次的な知能の発達遅延を予防する。
3. 立ち直り反射を抑制する。
4. 拘縮を予防する。

あ 12-105 脳性麻痺患者に伴わないのはどれか。

1. 骨格の変形
2. 知的障害
3. 感覚機能の障害
4. 脳病変の進行

あ 16-98 脳性麻痺を疑う根拠として誤っている記述はどれか。

1. 超低出生体重児である。
2. 新生児期に重症黄疸を認める。
3. 頸定(首のすわり)が生後 6 か月に始まる。
4. びっくり反射(モロー反射)が生後 3 か月でみられる。

あ 17-98 脳性麻痺について誤っている記述はどれか。

1. 受胎から生後 4 週までに生じた脳病変を原因とする。
2. 永続的な、運動と姿勢の異常がみられる。
3. アテトーゼ型では筋緊張が動揺する。
4. 痙直型両麻痺では下肢に比べ上肢の障害が強い。

あ 19-98 脳性麻痺について正しい組合せはどれか。

1. 両麻痺 ————— 上肢より下肢の麻痺が重度
2. アテトーゼ型 ——— 頻度が最も高い
3. 失調型 ————— 痙性麻痺
4. 痙直型 ————— 不随意運動

あ 24-87 アテトーゼ型脳性麻痺にみられる二次的合併症で最も多いのはどれか。

1. 認知症
2. 痙性片麻痺
3. 変形性肩関節症
4. 頸椎症性脊髓症

あ 25-87 脳性麻痺で起こる痙直型両麻痺の歩行について正しいのはどれか。

1. 失調性歩行
2. 分回し歩行
3. はさみ脚歩行
4. トレンデレンブルグ歩行

あ 26-90 脳性麻痺で最も多い病型はどれか。

1. 失調型
2. 非緊張型
3. アテトーゼ型
4. 痙直型

あ 27-88 痙直型脳性麻痺について正しいのはどれか。

1. 運動療法の開始は2歳以降とする。
2. 成長に伴い関節拘縮や変形が合併する。
3. 頸部の不随意運動を特徴とする。
4. 原因に進行性の疾患が含まれる。

あ 28-88 脳性麻痺に生じる拘縮のない内反尖足に対する治療で最も適切なのはどれか。

1. 抗てんかん薬投与
2. ボツリヌス療法
3. ハムストリングス腱延長術
4. 足関節固定術

【小児疾患】

はき 23-85 小児疾患と障害の組合せで正しいのはどれか。

1. ポリオ ————— 球麻痺
2. 進行性筋ジストロフィー症 ————— 両麻痺
3. 二分脊椎 ————— 対麻痺
4. ダウン症 ————— 片麻痺

【脳性麻痺】

はき 1-95 脳性麻痺で誤っているのはどれか。

1. 単なる運動麻痺ではなく運動発達障害の要素が多い。
2. 最初は筋緊張が低く次第に異常筋緊張を示すことが多い。
3. 四肢麻痺であるから訓練が難しい。
4. けいれんのコントロールが大切である。

はき 2-94 脳性麻痺について誤っている記述はどれか。

1. けいれん発作のコントロールが必要である。
2. 精神発達遅滞と麻痺の程度とは無関係である。
3. 訓練法としてボバース法、ボイタ法などがある。
4. 訓練は学齢期から開始する。

はき 6-95 脳性麻痺について正しい記述はどれか。

1. 障害は1歳ころまで現れてこない。
2. 知的能力と機能障害とは一致しない。
3. 呼吸障害は伴わない。
4. 感覚障害は伴わない。

はき 9-93 脳性麻痺について正しい記述はどれか。

1. 痙直型は腱反射が低下する。
2. アテトーゼ型は不随意運動がみられない。
3. 失調型は平衡機能が保たれる。
4. 弛緩型は抗重力姿勢が保てない。

はき 11-93 脳性麻痺について誤っている組合せはどれか。

1. 痙直型 — 腱反射亢進
2. 弛緩型 — 抗重力姿勢保持困難
3. 強剛型 — 関節拘縮
4. アテトーゼ型 — 鉛管現象

はき 14-93 脳性麻痺の病型として誤っているのはどれか。

1. 感覚障害型
2. 運動失調型
3. 痙直型
4. アテトーゼ型

はき 15-91 脳性麻痺でみられにくいのはどれか。

1. 尿 閉
2. けいれん
3. 嚥下困難
4. 言語発達遅延

はき 21-91 脳性麻痺について正しい記述はどれか。

1. 脊髄病変が関与する。
2. 運動の永続的障害である。
3. 進行性病変である。
4. 生後4か月以降に生じる。

はき 25-86 脳性麻痺の定義について正しいのはどれか。

1. 進行性病変に基づく。
2. 永続的な運動障害である。
3. 脊髄病変も関与する。
4. 症状は生後 4 週以内に発現する。

はき 27-85 痙性麻痺がある脳性麻痺患者に対してよく行われる治療はどれか。

1. 向精神薬投与
2. 頸椎除圧固定術
3. ボツリヌス療法
4. 人工膝関節置換術

はき 28-86 脳性麻痺について正しいのはどれか。

1. 早期診断は容易である。
2. 診断が確定してから介入する。
3. 運動発達は自然に任せる。
4. 家族への保育指導を行う。

---

脳性麻痺&小児疾患（ 17 問 ）

あまし国家試験 リハビリテーション医学

---

【小児疾患】

あ 13-104 生後 4 か月児で発達異常が疑われるのはどれか。

1. 首がすわらない。
2. 寝返りを打たない。
3. ガラガラを握らない。
4. 母親を呼ばない。

【脳性麻痺】

あ 3-102 脳性麻痺の病型に含まれないのはどれか。

1. 痙直型
2. 失調型
3. デュシェンヌ型
4. アテトーゼ型

あ 4-105 脳性麻痺によくみられる状態として誤っているのはどれか。

1. 脳病変の進行
2. 運動発達の遅延
3. 筋緊張の亢進
4. 股関節脱臼の出現

あ 5-99 脳性麻痺について正しい記述はどれか。

1. 脳の進行性病変に基づく障害である。
2. 神経生理学的訓練が行われる。
3. 手術的治療の対象とはならない。
4. 補装具による治療効果は期待できない。

あ 6-106 脳性麻痺について誤っている記述はどれか。

1. 病型として痙直型が多い。
2. 聴力障害は言語発達を遅らせる。
3. 異常な運動パターンを示す。
4. 運動療法の開始は3歳まで待つ。

あ 7-103 脳性麻痺の早期訓練開始の目的で誤っているのはどれか。

1. 脳損傷の改善
2. 二次的な知的発育遅滞の予防
3. 関節拘縮の予防
4. 正しい運動パターンの獲得

あ 8-104 脳性麻痺について誤っている記述はどれか。

1. 脳の非進行性病変で起こる。
2. 症状は生後4週間以内に発現する。
3. アテトーゼ型は不随意運動を呈する。
4. 痙直型は関節の変形が起こりやすい。

あ 9-103 脳性麻痺の早期治療の目的で誤っているのはどれか。

1. 正しい運動パターンを獲得する。
2. 二次的な知能の発達遅延を予防する。
3. 立ち直り反射を抑制する。
4. 拘縮を予防する。



あ 12-105 脳性麻痺患者に伴わないのはどれか。

1. 骨格の変形
2. 知的障害
3. 感覚機能の障害
4. 脳病変の進行

あ 16-98 脳性麻痺を疑う根拠として誤っている記述はどれか。

1. 超低出生体重児である。
2. 新生児期に重症黄疸を認める。
3. 頸定(首のすわり)が生後 6 か月に始まる。
4. びっくり反射(モロー反射)が生後 3 か月でみられる。

あ 17-98 脳性麻痺について誤っている記述はどれか。

1. 受胎から生後 4 週までに生じた脳病変を原因とする。
2. 永続的な、運動と姿勢の異常がみられる。
3. アテトーゼ型では筋緊張が動揺する。
4. 痙直型両麻痺では下肢に比べ上肢の障害が強い。

あ 19-98 脳性麻痺について正しい組合せはどれか。

1. 両麻痺 ————— 上肢より下肢の麻痺が重度
2. アテトーゼ型 ——— 頻度が最も高い
3. 失調型 ————— 痙性麻痺
4. 痙直型 ————— 不随意運動

あ 24-87 アテトーゼ型脳性麻痺にみられる二次的合併症で最も多いのはどれか。

1. 認知症
2. 痙性片麻痺
3. 変形性肩関節症
4. 頸椎症性脊髄症

あ 25-87 脳性麻痺で起こる痙直型両麻痺の歩行について正しいのはどれか。

1. 失調性歩行
2. 分回し歩行
3. はさみ脚歩行
4. トレンデレンブルグ歩行

あ 26-90 脳性麻痺で最も多い病型はどれか。

1. 失調型
2. 非緊張型
3. アテトーゼ型
4. 痙直型

あ 27-88 痙直型脳性麻痺について正しいのはどれか。

1. 運動療法の開始は2歳以降とする。
2. 成長に伴い関節拘縮や変形が合併する。
3. 頸部の不随意運動を特徴とする。
4. 原因に進行性の疾患が含まれる。

あ 28-88 脳性麻痺に生じる拘縮のない内反尖足に対する治療で最も適切なのはどれか。

1. 抗てんかん薬投与
2. ボツリヌス療法
3. ハムストリングス腱延長術
4. 足関節固定術